

### 第3学年国語科学習指導案

日 時 平成20年11月21日(金) 4校時  
児 童 3年4組 男16名 女17名 計33名  
指導者 平野典子

- 1 単元名 大事なことをたしかめよう  
教材名 「すがたをかえる大豆」(国分 牧衛)「食べ物はかせになろう」(光村図書 3年下)

#### 2 単元について

##### (1) 指導事項について

本単元は、「読むこと」「書くこと」の複合単元である。「読むこと」の主たる指導事項は、「イ 目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。」「オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要などころは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。」である。また、「書くこと」における主たる指導事項は、「イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすることができる。」「エ 書こうとする事を中心を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書くこと。」である。

##### (2) 教材について

本単元「大事なことをたしかめてかこう」は、身近な食べ物である大豆を題材にしてかかれた説明文を、中心となる語や文、段落相互の関係に注意して読み、その上で、自分が興味をもった食べ物について調べて文章にまとめて書くことをねらいとしている。

本教材「すがたをかえる大豆」の文章構成は、「はじめ・中・終わり」になっている。一貫して、大豆がどのような工夫で、どのような姿にかわっていくかが述べられている解説型の文章であり中心となる語や文をとらえやすい。また、接続語「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」「このほかに」等の働きによって、大豆が姿を変えていくことを論理的にとらえることができる。

「食べ物はかせになろう」は、自分が興味をもった食べ物について資料を集め、段落相互関係を考えながら文章の構成を考え食べ物の紹介の文を書くことができ、単元のねらいにせまることのできる教材である。

##### (3) 児童について

###### ① 学習意欲について

児童は、全体的な読書への関心が高く進んで読書に親しんでいる。国語の学習については、学習課題に向かって意欲的に一人学びをする姿が見られる。しかし、文章を書くことに抵抗をもつ児童が多く、個人差が大きい。

###### ② 読むことについて

「ありの行列」では、ありの行列のできるわけを読むために段落ごとの要点を正しく読み取ったり、文末表現や接続語の働きの特徴から文章構成をとらえたりする学習をした。叙述から内容を正しく読み取ることでできる児童は多く、接続語から文章構成に気付くことのできる児童もいる。

###### ③ 読む活動について

音読については、一斉読や学習範囲を確認するための指名読み、読みを深めるための微音読や黙読などを学習の中に取り入れてきた。物語文では場面の様子を想像しながら、説明文では大事な段落や文章を学習中に何度か取り上げ音読を取り入れている。場面の様子や大事な段落や文章に気をつけながら音読することができる児童が多い。

###### ④ 書く活動について

「ありの行列」では、「問い」と「答え」の文、ウイルソンが行った実験、ありの行動などにサイドラインを引く一人学びを中心に学習をしてきた。大事な語や文章に着目してサイドラインを引くことのできる児童が多い。

##### (4) 指導について

###### ① 学習意欲について

「すがたをかえる大豆」を読み取りながら、「食べ物はかせになろう」に向けて並行読書に取り組むことで、学習意欲を高めていく。また、学習の見通しをもたせることで学習のゴールを明確にし、書くことへの抵抗がある児童の意欲化を図る。

###### ② 読むことについて

読みの視点(すがた、工夫、手の加え方)に着目して読み取りを進めながら、筆者の述べ方の順序の工夫に気付き、「書くこと」に生かすことのできるようにする。

###### ③ 読む活動について

読みの視点(すがた、工夫、手の加え方)に着目しながら音読や黙読をし、それらを自力で見つけられるようにする。

###### ④ 書く活動について

読みの視点(すがた、工夫、手の加え方)についてサイドラインを引き、表に書きまとめるようにする。学習のふり返りでは、本時の学びを個々にふり返り、自分の考えの再構築をする活動を取り入れるとともに、自分の考えを書かせる。

### 3 学習指導目標

- (1) 国語への関心・意欲・態度
  - ・身近な食べ物について興味をもちながら、読み物や図鑑を進んで読もうとしている。
- (2) 読む能力
  - ・中心となる語や文、段落相互の関係に注意して大豆がすがたをかえることを読み取ることができる。(読イ)
  - ・目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むことができる。(読オ)
- (3) 書く能力
  - ・興味をもった食べ物について情報を収集・選択することができる。(書イ)
  - ・段落相互の関係を考えながら調べた食べ物を説明する文章を書くことができる。(書エ)
- (4) 言語についての知識・理解・技能
  - ・文章全体における段落の役割を理解することができる。(言オ【イ】)

### 4 指導計画及び評価規準 (「読むこと」7時間 「書くこと」10時間 計17時間)

次	時	学習内容	評価規準
一	1	・題名読みやブックトークにより、大豆や身の回りの食べ物に対する興味・関心をもつ。 ・全文を通読し、感想などを交流する。	【関】大豆や身の回りの食べ物に関心をもち、不思議や驚きを発見しようとしている。
	2	・「食べ物はかせ」になるための全体計画を立てる。	【関】身の回りの食べ物に関する文章を書くことに興味をもっている。
二	3	・第一、二段落を読み、読みの視点(すがた、工夫、手の加え方)をつかむ。	【読】中心となる語や文に着目し、話題と大豆の説明を読みとっている。(オ)
	4	・第三、四段落の大豆のすがた、工夫、手の加え方を読む。	【読】中心となる語や文に着目し、いり豆や煮豆、きな粉にすがたを変える大豆の、おいしく食べる工夫や手の加え方を読みとっている。(オ)
	5	・第五、六、七段落の大豆のすがた、工夫、手の加え方を読む。	【読】中心となる語や文に着目し、とうふや納豆、みそやしょうゆ、えだ豆やもやしにすがたを変える大豆の、おいしく食べる工夫や手の加え方を読みとっている。(オ)
	6	・第八、九段落から、筆者の考えを読み、文章全体の構成をとらえる。	【読】昔の人々の知恵のすばらしさについて、筆者の考えを読みとっている。(イ) 【言】段落相互の関係をおさえ、文章の構成をとらえている。(オ【イ】)
	7 本時	・第三～七段落の読みをもとに、5つの段落のつながりを考える。	【読】段落と段落を比べながら、大豆がすがたを変える事を分かりやすく伝えるため、筆者が述べ方に工夫していることに気付いている。(イ)
三	8	・調べたい食べ物を決め、学習計画を立てる。	【関】調べたい食べ物をきめ、学習計画を立てようとしている。
	9	・本で調べる方法を知り、情報を収集する。	【書】必要な情報を集めてカードに書いている。(イ)
	10		
	11		
	12		
13	・説明文の構成の仕方を確認し、情報を整理する。	【書】情報を整理して、段落ごとにまとまりのある文章を書いている。(エ)	
14			
15	・文章にまとめ清書する。	【書】伝えたいことが分かるように、段落と段落の続き方を工夫して文章を書いている。(エ)	
16			
17	・「食べ物はかせ」交流会をする。	【関】さまざまな食べ物をおいしく食べられる工夫について関心をもち、友達の作った文章を読んでいる。	

### 5 本時の指導

- (1) 目標
  - 読む能力(イ)
    - 段落と段落を比べながら、大豆がすがたをかえることを分かりやすく伝えるため、筆者が述べ方の工夫をしていることを理解することができる。

(2) 展開

段階	学習活動	教師の支援 (○主発問)
見 通 す 8 分	1 前時までの学習を想起する。  2 本時の学習課題を確認する。 筆者のせつめいのひみつを さぐる。	<b>【読む活動】</b> 前時までの学習を振り返るために、③～⑦段落の事例をどのような順序で説明しているのか、確認しながら音読させる。 ・③～⑦段落まで、「くふう」「すがた」「手の加え方」を手がかりにして読んだことを確認する。  ・本時は、筆者の説明のひみつについて学習することを確認する。
深 め る 30 分	3 課題を解決する。 (1) 説明の順序を入れ替えた学習場面を音読する。  (2) ③～⑦段落の順序を入れ替えたものと比べながら読み、筆者の説明の順序の工夫について気が付いたことを書く。  (3) 筆者の説明のひみつについて学び合う。	・筆者の説明の順序の工夫に目を向けさせるために、順序を変えた文章を提示する。 <b>【読む活動】</b> 順序の違いに気づかせるために、③～⑦段落のまとまりをどのような順序で説明しているのか、確かめながら音読させる。  ○先生の考えた説明の順序と筆者の説明の順序では、どちらのほうが分かりやすいでしょうか。 <b>【書く活動】</b> ③～⑦段落について、順番を入れ替えたものと本文を比べ、気が付いたことを書かせる。 ・分かりやすさの理由を書くことで、順序の工夫に気付くことができるようにする。 ・説明の秘密を見つけられない児童には、「いちばん分かりやすいのは」の意味を考えさせ、どのような順序ですがたをかえた大豆の様子が説明されているのか考えさせる。  ○なぜ、国分さんはこの順序で説明をしてると思いますか。 ・段落ごとの「すがた」「工夫」「手の加え方」を比べ、それぞれが読み手にとって分かりやすい順序で説明されていることをとらえさせる。 ・読みの手がかりから、⑦段落は、③～⑥段落と関連性はあるけれども、他のことを説明していることをとらえさせ、付け加える内容は、最後に説明されることに気付かせる。
ま と め る 7 分	4 本時の学習のまとめをし、学習の振り返りをする。  5 次時の学習内容を確認する。	<b>【書く活動】</b> 本時の学習を通して、分かったことをまとめ、自分の振り返りを記入する。  ・次時は、「調べたい食べ物を決め、書くための学習計画を立てる」ことを確認し、学習への見通しをもつことができるようにさせる。

(3) 具体の評価規準

観点	十分に満足できる	満足できる	努力を要する児童への手立て
読む能力	段落相互の関係を考えながら読み、段落のはじめの言葉の働きにも目を向けて、大豆が姿を変えることを分かりやすく伝えるために説明の順番に工夫している筆者の述べ方を理解することができる。	段落と段落を比べながら、大豆がすがたをかえることを分かりやすく伝えるため、筆者が述べ方の工夫をしていることを理解することができる。	板書から、大豆が姿を変えることを分かりやすく伝える筆者の述べ方の工夫について気付かせるようにする。